＜全体集会発言＞　　京都生協労組　　小寺さん

皆さん、こんにちは。私はただいまご紹介いただきました、京都生協のパートだけで作っています労働組合、京都生協パート労組の執行委員長をしております小寺と申します。あまり時間がありませんので、この間のたたかいの報告を少しさせていただきたいのですけれども、端折った報告なると思います。ご了承ください。

　早速ですが、私たちはパートだけで作っている労働組合です。結成して約30年になりますけれども、春闘とか夏期一時金、年末一時金のたたかいというのは、私たちはいつも300人ぐらいの団交をやります。そういうことで、経営者側、理事会と言うんですけども、そことたたかっていきます。

　去年の08春闘では、その300人の倍の600人を集めました。この間、そういうご報告、何回かどこかでしているんですけれども。約パートの半分、５割ガッコウと私たち言うんですけど、600人の団交を成功させて、そして11年ぶりに賃上げを勝ち取りました。何と10年間、１円も賃上げがなかったという状態です。でも京都生協、お陰さまで、去年は生協始まって以来の景気を上げまして、ここで１円でも勝ち取らないともうどうしようもないということで、私たち頑張りまして、やっと、たかが２円ですけれども、２円の賃上げを勝ち取ることができた。でもやっぱりそれはほんとうに600人集まった団交参加者、そしてそれを送り出してくれた労組員全員の団結の力だと思っています。

　その後も、夏期一時金のたたかいに引き続いていったんですけれども、私たちは、夏期一時金では、この間正規職員との格差是正に重点を置いてとりくんでいます。改正パート法のなかにも、「一時金も含めて正規との格差是正を図ること」という項目があるわけですけれども。私たち京都生協の場合は、労働組合が正規とパートで分かれていますが、以前は一時金で言えば、年間一時金で夏冬合わせて、正規の７割ぐらいの月数をもらったんです。ところが10年ぐらい前に京都生協の経営も厳しくなりまして、そのときに、そのときの月数の半分ぐらいの月数に減らされました。それは正規もパートもですけれども、減らされたときに格差も半分に月数を抑えられたという状況になっています。

　いまさっき言いましたように、去年は／／を達成するということで、この間京都生協はずっと右肩上がりで成長を回復してきていますので、経営が回復した以上は、やっぱり夏期一時金、生協が格差是正するべきだということで、ずっと主張しています。私たちが我慢して協力してきた分を、ちゃんと経営者として、私たちの奮闘に応えるべきだということで主張してきていますが、なかなか半分、50％で格差を是正するということで、理事会は前向きにとりくんでこなかったんです。

　でも改正パート法が施行されて、そしてやっぱりいま、先ほどの話もありますように、私たちパートは、ほんとうに正規並みに働いていますし、生協のなかでは中心的な役割を担って、どこの生協でもパートが頑張って働いています。そういうなかで正規の月数の半分しかないというのは、私たちはとうてい納得いかないということで、この間、団交で強く理事会に迫ってきました。やっと去年、わずか0.01カ月です。それでも上積み再回答させて、0.6％の格差の是正をさせたということです。それもやっぱり私たちが団交でとりくんで、みんなで発言をして頑張ってきた成果だと思っています。

　それで、年末一時金のたたかいに移るんですけれども、皆さんご存じのように、去年の１月に餃子事件がありまして、生協はどこも厳しい状況になりました。京都生協もやはりそういう風評被害も受けて、餃子自体は出なかったですけれども、いろんな厳しい経営状況のなかで、その時点で年末一時金のなかで、08年度の決算はもちろん出てないわけですけれども、厳しくなるやろうと。それから金融危機に端を発して、日本経済が厳しくなるから、経営が厳しくなるやろうからいうことで、年末一時金回答は、「正規は下げる」と、「パートは前年並みを出して、格差是正」というのを一応言ってきた理事会ですから、パートも同じように下げるということはしなかったですけれども、「正規の一時金を下げる」という回答をしてきたんです。

　それで私たちは、「これは納得いかない」ということで、正規労組とパート労組が団結をしまして、11月21日にストライキにとりくみました。春闘のときは毎年私たちは、正規とパートで15分のストライキをやるんですけれども、去年は初めて年末一時金闘争でこのストライキにとりくみました。約1,000名が15分ストに入りまして、理事会で私たちの団結の力を示しました。そうして本部前では、集会として、200人の参加で成功させて、その後正規とパートの執行委員が、指名ストライキをやりまして、コープの周りを全部でぐるぐる回るというようなことまでやりました。そういう初めてのたたかいをととりくむなかで、理事会はこういう回答をせざるを得ないということになりまして、正規には前年実績を出し、私たちには、前年よりもさらに0.01カ月ですけれども上積みの再回答を出すということまで、たたかって勝ち取っています。

　そしてそのたたかいに私たちは確信を得て、去年の12月のぎりぎりになりまして、正月の３日加給のたたかいにとりくみました。これまで低く抑えられてきた正月の３日加給を、何としても私たちは全国平均並みに上げてほしいということで、たたかいました。

　なかなか理事会が動かなかったので、「今年の１月３日は出勤しない」と、「パートみんな出勤に協力しませんよ」と、「そういうストでやりますよ」ということを通告しました。そうしたら理事会が慌てまして、パートが出勤しなかったらお店なんか回らないのはわかりきっているわけですから、「それでやるんだったらどうぞ正規とアルバイトの皆さんとパート以外でやってください」と言ったら、理事会は「それは困る」ということで、私たちの要求に応えて、要求通りには出しませんでしたけれども、ほぼ近い回答を出しましたので、私たちはストライキを中止して、１月３日の営業には出勤して協力したと。今後は１月３日は出勤するということを協定で結んだというふうになっています。

　そして今年のたたかいになるんですけれども、こういう去年までのたたかいでは、私たちは確信をもって、労働組合は団結してたたかうことが命だというふうに思います。それとやっぱり引いてはならないこと、何としても雇用を守ることとか、理事会の理不尽な対応とか、それから私たちの要求が一歩も引けないような要求であるならば、それはストライキを構えてでもたたかうことが重要だと思っています。

　そのことに私たちは確信をもって、今回も１円の賃上げもありませんし、それから正規との格差も去年よりは進んでいません。この点でも来週の28日にまた春闘の３回目の団交をやるわけですけれども、ここで理事会が誠実な回答を示さない場合は、６月に残業をしないという、順法闘争に入るということを計画しています。そういうことで私たちはたたかって、何としてもみんなの生活改善、１円でも賃上げを勝ち取って、そして格差是正に理事会はしっかり責任を果たす、ということでたたかっていきたいと思っています。そういう決意で頑張ります。皆さん、共に頑張りましょう。（拍手）